



給食・食育の研究を進めています

校長 戸倉 務

明けましておめでとうございます。令和7年、2025年の始まりです。皆様そろって健やかに新しい年を迎えられましたこと、お慶び申し上げます。正月は、一年のうちで、最も大きな節目です。

今回の冬休みは、年末年始と週休日がうまくつながって、様々な過ごし方ができたと思います。遠くへ出かけるもよし、家でのおんびり過ごすもよし、楽しみ方はいろいろです。去年のことを思い出しながら、新年の目標を立てるのも、正月の一コマです。

年末年始の楽しみに、「食べる」ことがあります。正月は特に、これから始まる一年間に向けて、おせち料理などでたっぷり栄養をつけたご家庭も多いと思います。家族や親戚、友人と一緒に「食べる」ことで絆を深め、折々の季節感を味わう日本の文化は、正月から始まっています。

食べる、といえば学校では給食です。農林水産省のHPによれば、給食は明治時代に一部の学校で、生活の苦しい家庭の児童に無償で昼食を用意したことが起源だとされます。なでしこ小の前身・第二岩淵小学校創立の年、大正12(1923)年には、給食は児童の栄養改善の方法として国から奨励されましたが、その後戦争による食料不足などの理由で、中止せざるを得なくなりました。戦後の学校給食は、一日に必要な栄養素のおよそ3分の1が摂取できるように、栄養のバランスを考えて作られるようになりました。

「食育」の観点が学校給食に位置付けられたのは、平成21(2009)年です。以来本校でも、毎日の給食の機会に「食育」の観点到った給食指導を推進しています。保護者の皆様には、毎月の献立・給食だより、たべものしんぶん、給食チャンネル、給食試食会等を通して、本校の給食・食育の取組をお伝えしているの、内容はよくご存知のことと思います。その充実ぶりに校長としても驚くことが多く、受けた衝撃を北区内に広げるために、本年度の北区学校保健会の研究指定を受けて、誌上発表することにしました。

特色ある取組の例を挙げれば、「おはなし給食」。読書指導と連携して、メディアセンターの本や教科書の題材に関連させた献立を提供して、食事と読書の双方に興味関心をもたせるようにしています。他にも、「(運動会・学芸会) 応援メニュー」「(新米・くだもの) たべくらべ」「地産地消メニュー」。そして年末の「給食総選挙」などがあります。「選挙」の結果が実際の献立に反映されるという楽しみも用意されています。昨年度は「かみかみサラダ」が並み居る強敵を抑え第一位で当選したことから、児童の食べることに對する意識の育ちをうかがい知ることができました。

市川三紗栄養士・給食室を中心に、本校児童の「食」に関する実態を踏まえ、健康によい食事のとり方などの望ましい食習慣を楽しく身に付けることを願い、内容の工夫・改善に努めています。無理強いではなく、自分の健康の保持・増進のために、食べたことのないものや食べ慣れないもの、嫌いなものでも少しずつ食べようとする意識をもたせようと、あの手この手で考えています。今年も本校の給食指導・食育に、どうぞご期待ください。



創立 100 周年記念マスコット
ももなでちゃん
「給食」バージョン
(作・市川栄養士)



子供たちの“考える力”を育てる（校内研究）

研究主任 清水 隆志

学校での学習者は子供たちだけにあらず、教員も日々、授業改善や業務改善に向けて学び続けています。そうした学びの一環として、子供たちの育成や指導法の工夫などを主眼とした「校内研究」というものに取り組んでおり、今年度は「自ら考え、表現する児童の育成」をテーマにしています。

変化の激しい現代においては、従来より教育の場で重視されていた「知識（何を知っているか）」はもとより、「思考力（知識をどう使えるか）」を身に付けることが求められています。書いてあることをただ読み取るだけでなく、読み取ったことを基に「自分はどう思うのか」を考える授業づくりに取り組んでいます。校内研究を軸に、今後も子供たちに「変化の激しい時代を生き抜く考える力」を育てていけるよう努めて参ります。



学習の様子

第5学年担任

高学年の仲間入りをしてから、9ヶ月がたちました。子どもたちは、学習したことを友達と関わり合いながら、工夫してまとめようとする姿勢が身に付いてきました。校内研究教科の国語科の学習では、文章の中の表現の変化や情景描写から、登場人物の心情を考えました。自分の考えをもった上で、友達考えに触れることで、より自分の考えを深めるきっかけとなりました。学校の中で友達と関わり合いながら学ぶことは、一人で学習するだけでは得られないことのない学びがあるように感じました。



ユニセフ募金について

ユニセフ募金担当 吉岡 真実

12月17, 18日の2日間、環境ボランティア委員会の児童がなでしこモールに立ってユニセフ募金の取り組みを行いました。

ユニセフ募金は毎年この時期に取り組みを行っており、今年度は29802円の募金が集まりました。募金袋には、「すべての子どもに、笑顔を。」「すべての子どもに、ハッピーを。」などといった児童それぞれの思いを書いて募金する姿が見られました。

100円の募金があれば、病気と闘う力を強めるビタミンAのカプセル（1個で半年分）が33個分になったり、5リットル程度の水を浄化する浄水剤131錠分になったりします。

今回のユニセフ募金を通して子供たちは、普段自分たちが暮らしている日常は当たり前ではないことに気付くことができたのではないかと思います。ご協力ありがとうございました。